

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00705

研究課題名（和文）外国語教師に求められる資質・能力の比較研究 - 認定試験と養成・研修に焦点をあてて -

研究課題名（英文）A Comparative Study of the Competencies Required of Foreign Language Teachers:
Focus on Certification Examinations, Training, and Development

研究代表者

保坂 敏子 (HOSAKA, Toshiko)

日本大学・大学院総合社会情報研究科・教授

研究者番号：00409137

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、日本、イギリス、フランス、ロシア、中国、イタリアの6か国を対象に、自国語を第二言語・外国語として教える教師の認定試験や養成・研修課程の比較分析を通じて、グローバル化社会における言語教師に求められる資質・能力を明らかにすることである。コロナ禍による移動制限の影響を受けつつも、オンライン調査を行い、特に、各国の認定試験や養成課程の調査を基に、背景や歴史的変遷の比較分析を行った。また、オンライン教育の枠組みの検討と、日本語教師養成の必須教育内容の比較分析も行った。その結果を学会発表や論文として発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、6か国（日本、イギリス、フランス、ロシア、中国、イタリア）における外国語または第二言語としての自国語教師の認定試験や養成・研修課程の比較分析を通じ、言語教師に求められる資質・能力の多様性を明らかにしている。学術的には、各国の教育制度の違いとその背景を解明し、言語教師教育の枠組みを拡充した。また、オンライン教育の枠組みについて新たな教育モデルを提案し、日本語教師養成の必須教育内容の問題点を指摘した。社会的には、言語教師教育の質向上に寄与し、グローバル化社会における言語教師の教育の再考を促した。これにより、言語教師の専門性向上や教育政策の改善に貢献できると考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the competencies required of language teachers in a globalized society through a comparative analysis of certification exams and training and development programs for teachers of their own language as a second or foreign language in six countries: Japan, the United Kingdom, France, Russia, China, and Italy. Despite the impact of travel restrictions caused by the COVID-19 pandemic, we conducted an online survey and, in particular, a comparative analysis of the background and historical transitions based on a survey of certification examinations and training programs in each country. We also examined the framework of online education and conducted a comparative analysis of the required educational content for Japanese language teacher training. The results were presented at conferences and published in papers.

研究分野：日本語教育

キーワード：言語教師教育 資質・能力 認定試験 養成・研修 比較研究 オンライン教育 第二言語教師 外国語教師

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 学術的背景

社会のグローバル化が進む中、日本においては外国人材の受け入れや外国人児童・生徒の増加に対応する必要が高まっている。日本語教育においても、こうした社会的要請に応じて、文化庁主導で日本語教師養成や日本語教育能力検定試験の見直しが行われた。平成30年(2018年)の文化庁報告『日本語教育人材の養成・研修の在り方について』および平成31年(2019年)の改訂版では、教育内容の再検討が行われ、細分化された資質・能力と教育内容が提示された。同時に、日本語教師を国家資格にする検討も始まった。他国においても、本国語を第二言語・外国語として教える教師に対して同様の状況が見られるのか、またどのような資質・能力が求められているのかを明らかにする必要性が高まっていた。

(2) 問題意識と研究の着想

本研究は、研究代表者が所属する大学院のゼミでの共同研究から着想を得た。日本語教育のみならず、英語、フランス語、ロシア語、中国語教育の現職教員が集まり、相互の教師教育の内容や資質・能力の違いに対する関心が高まった。特に、日本語教師養成における教育内容の広範さに対する驚きの声は他の言語の教師から上がり、これが研究の直接の契機となった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本、イギリス、フランス、ロシア、中国、イタリアの各国において、現在実施されている本国語を第二言語・外国語として教える教師の認定試験と養成・研修課程の教育内容について文献調査と現地調査を行い、比較分析を通じて以下の点を明らかにすることである。

(1) 第二言語・外国語教師に求められる資質・能力の特定

各国における認定試験や養成・研修課程の内容を比較することにより、グローバル化社会において必要とされる言語教師の資質・能力を明らかにする。

(2) 教育内容の共通点と相違点の把握

各国の認定試験と養成・研修課程の教育内容の共通点と相違点を明らかにし、各国の教育制度の特徴を浮き彫りにする。

(3) 教師認定試験と養成・研修の改善

比較分析の結果を基に、グローバル化社会における第二言語・外国語教師に期待されることや、今後の教師認定試験と養成・研修の教育内容について検討を加え、質の高い言語教師教育の提供に寄与することを目指す。

3. 研究の方法

(1) 文献調査

各国(日本、イギリス、フランス、ロシア、中国、イタリア)における第二言語・外国語教師の認定試験および養成・研修課程に関する文献を収集し、詳細な分析を行う。各国の教育制度、試験内容、養成・研修課程の資料を包括的に調査し、それぞれの特徴と共通点を明らかにする。

(2) オンライン調査

調査対象国に関して、関係機関や教育機関に聞き取り調査を実施する。これにより、文献から得られた情報の裏付けを取り、より具体的な実態を把握する。聞き取り調査は、現地の教育関係者や試験運営者、教師などが含まれる。(本調査は当初、現地調査を行う予定であったが、コロナ禍のため、オンライン調査に代替した。)

コロナ禍における移動制限の影響を受け、オンラインによる代替調査も実施する。オンラインインタビューやウェブ会議システムを活用して、現地調査が困難な場合でも情報収集を継続する。

(3) 比較分析

収集したデータを基に、各国の認定試験および養成・研修課程の比較分析を行う。分析の視点は以下の通り:「資質・能力の要件」「試験内容と形式」「養成・研修課程の教育内容」

これにより、各国の教育制度の特徴や共通点を明らかにし、グローバル化社会における言語教師に求められる資質・能力を特定する。

(4) 学会発表と出版

調査結果を基に、学会での発表や論文の執筆を行い、研究成果を広く発信する。最終的には、研究成果を一冊の書籍としてまとめ、出版することを目指す。

4. 研究成果

(1) 認定試験の調査と比較分析

日本、イギリス、フランス、ロシア、中国、イタリアの各国における言語教師認定試験の現状を調査し、資料を収集した。日本については、2024 年度に始まる日本語教員試験の前まで、いわゆる日本語教師の認定試験として運用されてきた「日本語教育能力試験」(JEES:公益社団法人日本国際教育支援協会)の過去の試験の問題集と、「全養協日本語教師検定」(一般社団法人全国日本語教師養成協議会)の公式問題集を入手し、分析を行った。イギリスは、「英語教授知識認定テスト(TKT:Teaching Knowledge Test)」(ケンブリッジ大学英語検定機構)を入手し、分析を行った。フランスは、公式のフランス語教師の認定テストがなかったため、中学・高校教員資格であるCAPES(certificat d'aptitude au professorat de l'enseignement du second degré)の外国語としてのフランス語の教師になるための試験問題を入手し、分析を行った。ロシア語は、調査の結果、外国語としてのロシア語教師になるための認定試験がないことが分かった。中国語は、国際中文教師資格試験(通常版)の問題集である『《国際漢語教師証書》考試真題集』を入手し、分析を行った。イタリアは、統一した試験はなく、Ca Foscari 大学と Siena 大学、Perugia 大学の3機関でそれぞれ教師養成を行い、試験を実施していることが分かり、3大学の試験を入手し分析した。

それぞれの分析結果について、分析を終了したものについて一部比較分析を行い、以下の発表を行った。

- ・谷部他(2022)「外国語教師に求められる資質・能力 中国と日本の自国語教師認定試験と養成に関する議論に焦点をあてて」第26回東アジア日本語教育・日本文化研究学会国際学術大会、口頭発表
➡日本語と中国語の認定試験と養成に関する比較を行った。
- ・保坂他(2023)「第二言語としての自国語教師認定試験について考える 日本語・中国語・英語の比較分析から」日本語教育学会秋季大会、交流広場で口頭報告
➡日本語と中国語と英語の3言語の認定試験の比較を行った

各国の外国語教師の認定試験の内容と背景、形式を比較し、資質・能力として想定している要件の特徴を明らかにした。

(2) 養成・研修課程の調査と比較分析

養成・研修の枠組みの調査

まず、各国の自国語養成や研修において、基準となる枠組みがあるかどうかの調査を行った。その結果、日本と中国には自国語教師の養成と認定試験のもとになる国家レベルの枠組みがあることが分かった。一方、イギリスやフランス、イタリア、ロシアには、国家レベルの枠組みは見当たらなかったが、EU 圏内に共通するヨーロッパレベルの共通の言語教師の職能開発のための枠組みがあることが分かった。入手した枠組みについては比較分析を行い、その結果を下記のとおり学会で報告した。

- ・保坂他(2022)「外国語教師教育の枠組みとしての『日本語教育人材の養成・研修の在り方』の特徴 European Profiling Grid との比較をもとに」第46回社会言語科学会研究大会ポスター発表
➡日本語教育の枠組みと欧州の外国語教師育成枠組みを比較した。

また、近年の日本語教育をめぐる日本語教師の国家資格化等の動きを調査し、論文にまとめた。

- ・本廣他(2022)「日本語教師の国家資格化への諸課題」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』22
➡日本語教師の国家資格化の経緯と課題を明らかにし、他言語の教師との比較の観点を考察した。

自国語教師養成課程・研修課程の調査と分析

各国の教師養成課程・研修課程の調査を行った。日本は、新旧の養成講座に関わる資料を調査した。フランスについては、パリ・ナンテール大学のFLE(Français Langue Étrangère:外国語としてのフランス語教授法)の修士課程の責任者、ならびに、INALCO(Institut National des Langues et Civilisations Orientales:国立東洋言語文化大学)で日本語教師養成講座を担当する責任者にインタビューを行った。イギリスについては、ヨーク・セント・ジョン大学の日本語・TESOL・言語学の3つを同時に専攻する修士課程の担当教員にインタビューを行った。中国は、中国語教師養成を行う大学の資料を入手した。ロシアは、ロシア語教育に関する書籍やインタネットで情報を入手した。イタリアは、Ca Foscari 大学と Siena 大学、Perugia 大学、ならびに、Dante Alighieri 協会においてそれぞれ教師養成講座を担当する人物にインタビューを行っ

た。インタビュー結果は、研究メンバーがそれぞれツン譚して分析を進め、その一部を比較分析して、各国の養成課程における教育内容の共通点と問題点を検討した。その結果は下記の学会で報告した。

- ・保坂(他)(2022)「外国語教師の養成で求められる『教育実習』の再考 『公認日本語教師』とフランスの事例の比較分析から」日本言語政策学会第24回研究大会、ポスター発表
→日本の「公認日本語教師(=登録日本語教員の前に国家資格の名称の候補)」の教育実習とフランスの外国語教師養成における教育実習の位置づけを比較分析し、課題と特徴を明らかにした。
- ・谷部他(2022) 認定試験の発表と同じ
- ・保坂(他)(2023)「日本語教師養成における『必須の教育内容』をめぐる課題 英国・フランスの外国語教師養成課程の事例から」第26回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム、ポスター発表
→日本語教師の養成に必要な「必須の教育内容」の50項目について、英国とフランスの外国語教師養成課程と比較し、その課題と独自性を明らかにした。

オンライン教育のための枠組みの調査と分析

本研究の期間中にコロナ禍が始まったため、日本語教師の養成課程に関する調査の一環として、遠隔教育・オンライン教育に関する調査と分析を行った。具体的には、遠隔教育について、教師養成や教師研修に関わる理論や実践の整理を行い、コロナ禍で広がったオンライン教育について、教師のための実践の枠組みとして新たな教育アプローチ(タペストリー・アプローチ)を提案した。コロナ禍における移動制限の影響を受け、オンライン調査を駆使して情報収集を継続した。オンライン教育の有効性についても検討を行い、オンライン授業の枠組みについて新たな提案に至った。本件に関する、研究成果の発表は以下のとおりである。

- ・保坂(2020)「日本語教育における遠隔教育」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』21
→遠隔教育の歴史と日本語教育における遠隔教育の発展を概観し、オンライン授業設計のガイドラインとして提案した。
- ・保坂(2021)「オンライン授業のデザイン-学び続ける日本語教師」令和2年度日本語学校教育研究大会、招待発表
→日本語教育における遠隔教育の歴史と実施形態を概観し、オンライン授業のデザイン指針として、プレゼンス理論や交流距離理論を提案し、具体的なガイドラインを示した。
- ・保坂(2022)「遠隔授業の理論から問い直す」『パネルディスカッション オンライン授業を問い直す 学びの最適化を目指して』日本語教育学会2022年度秋季大会 パネルセッション
→コロナ禍におけるオンライン授業の課題を整理し、遠隔教育の理論(プレゼンス理論、交流距離理論、同価値理論)を通じてオンライン授業の課題を再検討した。
- ・保坂(2023)「教育における効果的で創造的なICT活用のためのタペストリー・アプローチ」韓国日後教育学会第43回国際学術大会、口頭発表
→では、ICTの教育的活用の歴史と現状を踏まえ、ICTを効果的かつ創造的に活用するためのアプローチとして「タペストリー・アプローチ」を提案し、その具体的な実践方法と理論的背景を考察した。

以上、本研究で収集した各国のデータや資料は、各言語の教育における思想を反映した貴重な資料である。比較分析して発表できたのは一部にとどまったため、今後さらに比較分析を続ける必要がある。現在、その研究成果を一冊の書籍としてまとめる予定である。

本研究から得られた成果を通じて、言語教師に求められる資質・能力の多様性と共通性を明らかにし、質の高い言語教師教育の提供に寄与することを目指している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 本廣田鶴子, 島田めぐみ, 杉田千里, 藤光由子, 保坂敏子, 増田朋子, 谷部弘子	4. 巻 22
2. 論文標題 日本語教師の国家資格化への諸課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本大学大学院総合社会情報研究科紀要	6. 最初と最後の頁 353-364
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 保坂敏子	4. 巻 21
2. 論文標題 日本語教育における遠隔教育 オンライン授業のデザイン指針を探る	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本大学大学院総合社会情報研究科紀要	6. 最初と最後の頁 177-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 島田めぐみ・澁川晶・孫媛・保坂敏子・谷部弘子	4. 巻 23
2. 論文標題 日本語聴解認知診断テストの開発を目指したアトリビュートとテストの分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本言語テスト学会誌	6. 最初と最後の頁 37-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 増田朋子	4. 巻 8
2. 論文標題 V. A. ボフトフスキーのコンプリヘンション・アプローチに関する考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 複言語・多言語教育研究	6. 最初と最後の頁 71-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 谷部弘子・保坂敏子・島田めぐみ・杉田千里・藤光由子・増田朋子・本廣田鶴子
2. 発表標題 外国語教師に求められる資質・能力 中国と日本の自国語教師認定試験と養成に関する議論に焦点をあてて
3. 学会等名 第26回東アジア日本語教育・日本文化研究学会国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 保坂敏子
2. 発表標題 遠隔教育の理論から問い直す（パネル発表「オンライン授業を問い直す 学びの最適化をめざして」）
3. 学会等名 日本語教育学会2022年度秋季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 保坂敏子
2. 発表標題 ICT活用のためのタペストリー・アプローチの試案（企画発表「教育における効果的で創造的なICT活用のための タペストリー・アプローチ」）
3. 学会等名 韓国日本語教育学会第43回国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 保坂敏子・藤光由子・島田めぐみ・谷部弘子・時本美穂
2. 発表標題 日本語教師養成における「必須の教育内容」をめぐる課題 英国・フランスの自国語教師養成課程の事例からー
3. 学会等名 第26回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 保坂敏子, 島田めぐみ, 杉田千里, 藤光由子, 増田朋子, 本廣田鶴子, 谷部弘子
2. 発表標題 外国語教師教育の枠組としての「日本語教育人材の養成・研修の在り方」の特徴 European Profiling Gridとの比較をもとに
3. 学会等名 第46回社会言語科学会研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 保坂敏子, 杉田千里, 谷部弘子, 島田めぐみ, 本廣田鶴子, 増田朋子, 藤光由子
2. 発表標題 外国語教師の養成で求められる「教育実習」の再考 「公認日本語教師」とフランスの事例の比較分析から
3. 学会等名 日本言語政策学会第24回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 保坂敏子
2. 発表標題 オンライン授業のデザイン - 学び続ける日本語教師 -
3. 学会等名 令和2年度日本語学校教育研究大会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 保坂敏子・島田めぐみ
2. 発表標題 オンライン授業におけるピア・ラーニング - 「プレゼンス」の観点から振り返る -
3. 学会等名 第9回CASTEL/J(日本語教育支援システム研究会)(国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 山田智久, 伊藤秀明, マリア・アンヘリカ・ヒメネス・オタロラ, 熊野七絵, 小山千恵, 近藤弘, 下川有美, 高橋えるめ, 高橋薫, 保坂敏子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 192
3. 書名 オンライン授業を考える 日本語教師のためのICTリテラシー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

日本語教師養成研修の実践（保坂） 2020年度 文化庁委託 日本語教育人材の研修プログラム普及事業 日本語教育振興協会「留学生対象の日本語教師初任者研修プログラム普及事業」 2021年度 文化庁委託 日本語教育人材の研修プログラム普及事業 日本語教育振興協会「留学生対象の日本語教師初任者研修プログラム普及事業」 2022年度 文化庁委託 日本語教育人材の研修プログラム普及事業 日本語教育振興協会「留学生対象の日本語教師初任者研修プログラム普及事業」 2023年度 文化庁委託 現職日本語教師研修プログラム普及事業 日本語教育振興協会「留学生対象の日本語教師初任者研修プログラム普及事業」

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	島田 めぐみ (SHIMADA Megumi) (50302906)	日本大学・大学院総合社会情報研究科・教授 (32665)	
研究分担者	谷部 弘子 (YABE Hiroko) (30227045)	東京学芸大学・学内共同利用施設等・名誉教授 (12604)	
研究分担者	増田 朋子 (MASUDA Tomoko) (70869411)	神奈川大学・経営学部・非常勤講師 (32702)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	藤光 由子 (FUJIMITSU Yuko)		
研究協力者	杉田 千里 (SUGITA Chisato)		
研究協力者	本廣 田鶴子 (MOTOHIRO Tazuko)		
研究協力者	時本 美穂 (TOKIMOTO Miho)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関